

マタイ 4:12-17 「闇に輝く光」

「イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた。そして、ナザレを離れ、ゼブルンとナフタリの地方にある湖畔の町カファルナウムに来て住まわれた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

『ゼブルンの地とナフタリの地、
湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、
異邦人のガリラヤ、
暗闇に住む民は大きな光を見、
死の陰の谷に住む者に光が射し込んだ』

そのときから、イエスは、『悔い改めよ。天の国は近づいた』と言って、宣べ伝え始められた」

この地で、彼らは苦しみ、飢えてさまよう。民は飢えて憤り、顔を天に向けて王と神を呪う。地を見渡せば、見よ、苦難と闇、暗黒と苦悩、暗闇と追放。今、苦悩の中にある人々には逃れるすべがない。

これは、預言者イザヤが、ガリラヤの人々が置かれていた境遇を綴った、悲しみの言葉です。「苦悩の中にある人々には逃れるすべがない」という言葉が、胸を打ちます。いま、苦しみがあります。将来に、希望が見通せません。どこからも、助けを期待できません。そのような状況に、わたしたちも、人生の旅路の中で置かれることが、時にあるであります。

ガリラヤとは「辺境の地」という意味があります。湖を取り囲むこの地域は、ヨーロッパとアフリカを結ぶ交通の要衝でありました。数多くの王国、数多くの帝国が、侵略するために軍隊を送り出すとき、最初に攻撃され、最初に蹂躪されるのが、このガリラヤの地でありました。

軍隊が通るたびに、壊され、絶望の中から立ち上がり、一から築き直す。また軍隊が来て壊され、絶望の中から立ち上がり、一から築き直す。また軍隊が来て壊される。そうなったら、絶望の中から立ち上がることなど、できるであり

ましようか？

このような、破壊と再建、破壊と再建が、果てしなく繰り返される中で、希望を失い、疲れ果てて行ったのが、ガリラヤの人々でありました。

このような人々に、いかなる慰めの言葉が、あり得るのでしょうか？

「気を取り直して、町を建て直しなさい」という言葉は、何の慰めにもならないでありましょう。なぜなら、建て直しても、じきまた壊されることは、明らかであったからです。

「遠い将来、完全な平和が訪れるだろうから、それまで待ちなさい」という言葉もまた、何の慰めにもならないでありましょう。なぜなら、絶望し疲れ果てて座り込んでいる、「いま・この場所」が、どうにかされるわけではなかったからです。

しかし、預言者イザヤは、慰めの言葉を語りました。このように告げたのです。

「ゼブルンの地、ナフタリの地は辱めを受けたが
後には、海沿いの道、ヨルダン川のかなた
異邦人のガリラヤは、栄光を受ける。
闇の中を歩む民は、大いなる光を見
死の陰の地に住む者の上に、光が輝いた。
あなたは深い喜びと
大きな楽しみをお与えになり
人々は御前に喜び祝った」
「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。
ひとりの男の子がわたしたちに与えられた。
権威が彼の肩にある。
その名は、
『驚くべき指導者、力ある神
永遠の父、平和の君』と唱えられる」

絶望し疲れ果てて座り込んでいる。人間の経験における、最も低い場所であり
ます。その、人間の経験の最も低い場所は、いかなる光でも、照らし得ない、
深い闇であります。

もし、その深い闇を照らし得る、まことの光があるとするならば、それは、神
ご自身の光しか、あり得ません。いかなる闇をも打ち払うことのできる、神ご
自身の光であります。

絶望し疲れ果てて座り込んでいる。この、人間の経験における最も低い場所の、
ただ中に、神ご自身が、みどりごとになって、降りておいでになりました。わた
したちは、クリスマスの夜、ベツレヘムの馬小屋の飼葉桶の中で、その奇跡が
起きたということを、今日、告げ知らされております。

打たれれば痛み、嘲られれば心を病み、刺されれば血が流れ、命を奪われれば
土に、ちりに、帰って行く。それが、わたしたち人間の「人間性」であります。
わたしたちが、人間の経験における最も低い場所を通らされることがある、と
いうのは、ひとえに、わたしたちがこのような、こわれやすい「人間性」をも
っているゆえのことです。

その「人間性」の中へ、いまや神が、神ご自身を、置かれたのです。単に置い
た、というだけではありません。神が御自ら「人間性」をお取りになって、わ
たしたちと同じひとりの人間となってくださった。神が「人間性」において、
神ご自身を、わたしたちひとり、ひとりに、しっかり結び合わせてくださった
というのです。

その結び合わされた場所が、飼葉桶の中のみどりごイエスでありました。

この奇跡、この偉大な神秘が、いったい、いかにして可能とせられたのか。い
にしえより多くの神学者たちが、探求し、議論し、書物を書き著して来ました。
神学的な言葉を使って表現するとするならば、「三位一体の神の第二の位格であ
る子なる神において、神は、神性を人性にお与えになり、主イエスキリストに
おいて、神性と人性が分ち難く一つの人格のうちに結びついている」というこ

とになります。

しかし、このような神学の言葉よりも、わたしたちは、預言者イザヤが語った次の言葉を聞くことで、大きな恵みを実感することができるであります。すなわち

「わたしの主が御自ら
あなたたちにしるしを与えられる。
見よ、おとめが身ごもって、男の子を産む。
その名はインマヌエルと呼ばれる」

その名は「神は我々と共におられる」という意味であります。

主イエスキリストにおいて、神が人となりたもうた。主イエスキリストにおいて、神が我々と共にいてくださる。主イエスキリストにおいて、神が我々の人間性を担っていてくださる。主イエスキリストにおいて、神が我々の経験を、我々の感情を、我々の痛みを、我々の死をも、担っていてくださる。

それゆえに、わたしたちは、人間の経験の最も低い場所において「インマヌエル。神は我々と共におられる」と、喜びと確信をもって、告白することができるのです。

敵はまた、やって来るであります。われわれの手のわざは、無惨に壊されて行くであります。破壊されたものを再建する望みを持たない時があるであります。「気を取り直して立ち上がり、一から始めよう」そう人々が励ましても、絶望から立ち上がることの出来ない自分自身の弱さに直面する時があるであります。

しかし、そのような経験のただなかにおいて、まさに、主イエスキリストは、わたしたちと結び合っていてくださるのです。わたしたちが歩み出さなければならぬ次の一步を、主イエスが共に歩み出してく下さるのです。わたしたちが踏み出さなければならぬ次の一步を、主イエスが共に踏み出してく下さる

のです。わたしたちは、主イエスと共に、いまだ見ぬ地へ赴こうとしています。
しかし主イエスの御顔は、約束の地を、まっすぐに見据えていらっしゃいます。

ガリラヤの人々を慰め得た福音。それはまた、上海の焼け野原の人々を慰め得た福音です。南京の殺戮された町の人々を慰め得た福音です。跡形もなく焼き尽くされてしまったドレスデン、東京、広島、長崎の人々を慰め得た福音です。そうして、今日わたしたちを慰め得るのは、この同じ福音であります。

世界は、未曾有と言われる危機に、これから直面して行くことになるかもしれません。わたしたちは、人間の経験の最も低い場所に、これから入って行かなければならない、そういう時代を迎えることになるのかもしれません。

しかし、わたしたちは、なお、喜び得るのです。その喜びは、決してなくなることのない喜びです。その喜びは、パウロの次のような信仰告白に、わたしたちが共に連なる時、ゆるぐことのない、確かな喜びとなるのです。すなわち

「生きているのはもう、わたしではない。
キリストがわたしのうちに、生きている。
わたしがいま、からだをもって生きているのは
わたしを愛し、わたしのために身を献げられた
神の子、主イエスキリストに対する信仰による」

わたしたちは、いかにせば、この境地、この「生きているのはもう、わたしではない。キリストがわたしのうちに、生きている」の境地を、得ることができるのでしょうか？

それはひとえに、飼葉桶にお生まれになった御子イエスを、このわたしの救い主として、わたしの心の真ん中へ、お迎えすることによります。それは、わたしたちが、自分の心をまったく救い主におささげする、ということを意味いたします。今日わたしたちは、そのことをこそ、なすべきであります。お祈りいたしましょう。

祈り

恵み深い天の父なる神さま。

人間の経験の最も低い場所を通らされるわたしたちに、まことの慰めをお与えになるために、あなたのひとり子、主イエスキリストを、お送りくださったことを、心から感謝いたします。

御子イエスキリストにおいて、神が人ととなられたことを、わたしたちは信じます。

御子イエスキリストにおいて、神が人間性を共にわかち合ってくださいることを、わたしたちは信じます。

御子イエスキリストにおいて、神が、わたしたちの弱さ、わたしたちの痛み、わたしたちの恐れ、わたしたちの絶望、わたしたちの死を、共に担ってくださいることを、感謝いたします。

御子イエスキリストにおいて、神が、わたしたちの喜び、わたしたちの楽しみ、わたしたちの希望、わたしたちの命、わたしたちの生活を、共に分かち合ってくださいることを、感謝いたします。

主イエスキリスト。飼葉桶の中にお生まれになったあなたが、どうかいま、わたしたちの心の中に、おいでくださいますように。

そのために、わたしたちは、いま自分の心をまったくあなたにおささげいたします。どうか、わたしたちを、お受け取りください。わたしたちを、まったく、あなたのものとしてください。

主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。

アーメン